Vol.825　（月刊）毎月１日発行　Kenko Shinbun　2025年（令和７年）８月１日　無料

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人　新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原６－７－１
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十九年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

無神論について

普通無神論を書く場合、宗教的に論理を進めてゆくのがあたり前のようになっているが、私は全然宗教には触れないで、自分自身無神論者の立場に置き、書いてみようと思うのである。それはまず人間オギャーと生まれるや、早速育つに必要な乳という結構な液体が、しかも産んだ親の体からこんこんと湧き出てくる。それによって子は順調に育ってゆき、歯が生える頃になると噛んで食う食物も親は運んでくれる。というようにしてだんだん育って、遂に一人前の人間となるのは今更言うまでもないが、中でも最も肝心な食物について言えば、食物にはそれぞれの味が含まれ、舌には味覚神経があり、人間楽しみながら食う事によって充分カロリーは摂れるのである。何と言っても、人間の楽しみの中での王者はまず食事であろう。そんな訳で肉体は漸次発育すると共に、学校教育等によって頭脳は発達し、かくして一人前の人間としての働きが出来るようになる。そうなると色々な欲望が出て来る。また知恵、優越感、競争欲、進歩性等から、享楽、恋愛等の体的面までも頭を持ち上げてくる。というように理性と感情が交錯し、苦楽交々至るという一個の高級生物としての条件が具わり、社会を泳ぐ事になる。以上人間が生まれてから成人までの経路をザット書いてみたのであるが、次は大自然を眺めてみよう。

言うまでもなく天と地との間には、日月星辰、気候の寒暖、雨風等々、有形無形の天然現象から、直接人間に関係ある動物、植物、鉱物等々、あらゆるものは大自然の力によって生成化育されている。これがあるがままの世界の姿であって、これら一切を白紙になって冷静に客観するとしたら、無神経者でない限りただただ不思議の感に打たれ、言うべき言葉を知らないのである。実に何から何まで深遠絶妙の一語に尽きる。としたら、こんな素晴しいこの世界なるものは、一体誰が、何が為、何の意図によって造られたものであろうかという事で、何人もこれを考えざるを得ないであろう。そうして天を仰げば、悠久無限にして、その広さはどこまで続いているか分からない。又大地の中心はどうなっているのであろうか。太陽熱の最高は、月球の冷度は、星の数は、地球の重さは、海水の量は等々、数えあげればきりがない。考えれば考える程神秘霊妙言語に絶する。しかも規則正しい天体の運行、昼夜の区別、四季の変化、一年三百六十五日の数字、万有の進化、とどまるところを知らない文明の進歩発展等々は勿論、全体この世界はいつ出来たのか、いつまで続くのか、永遠無窮か、そうでないのか、世界の人口増加の限度、地球の未来等々、何もかも不可解で見当はつかない。

以上のごとく一切は黙々として一定の規準のもとに一粍の毫差なく、一瞬の遅滞もなく流転している。しかしそれはそれとして、一体自分という者は何が為に生まれ何を為すべきであろうか、いつまで生きられるのか、死んだら無になるのか、それとも霊界なる未知な世界があってそこへ安住するのか等々、これらも考えれば考える程分からなくなり、どれ一つとして分かるものはない。仏者の言う実にして空、空にして実であり、天地茫漠、無限無窮の存在であって、これよりほかに形容の言葉を見出せないのである。

（次頁へつづく）

浄霊体験記　2ページ　3ページ
- 入会して五十八年 幸福と感謝の日々…
- 九州北部豪雨 奇跡的に救われる…
- 半年痛んだ足 一ヵ月で楽に…

これをアバこうとして人間は何千年も前から、あらゆる手段、特に学問を作り探究に専念しているが、今日までにホンの一部しか分からない程で、依然たる謎である。としたら、大自然に対する人間の知恵などは九牛の一毛にもあたるまい。

これも仏者のいわゆる空々寂々である。ところが人間という奴うぬぼれも甚だしく、自然を征服するなどとホザいているが、全く身の程知らずのたわけ者以外の何物でもあるまい。故に人間は何よりも人間自体を知り、大自然に追随し、その恩恵に浴する事こそ最も賢明な考え方である。

ところで、以上のごとき分からないづくめの世の中に対し、たった一つハッキリしている事がある。それは何であるかというと、これ程素晴しい世界は一体誰が造り自由自在思うがままに駆使しているのかという事である。そこでこの誰かを想像してみると、まず一家庭なら主人、一国家なら帝王、大統領といったように、この大世界にも主人公がなくてはならない筈であり、この主人公こそ神の名に呼ばれているXでなくて何であろう、と言うよりほかに結論が出ないではないか。

以上の意味において、もし神が無いとしたら万有も無い事になり、無神論者自身も無い訳である。おそらくこれ程分かり切った話はあるまい。これが分からないとしたら、その人間は動物でしかない事になろう。何となれば動物には意志、想念も知性もないからであって、人間の形をした動物というより言葉はあるまい。それには立派な証拠がある。即ち無神思想から生まれる犯罪者であって、彼らの心理、行為のほとんどは動物的であるにみてよく分かるであろう。従ってこの動物的人間からその動物性を抜き、真の人間に進化させるのが私の使命であり、その基本条件が無神思想の打破であるから、一言にして言えば人間改造事業である。

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

帯状疱疹？・左足の痛み

入会して五十八年 幸福と感謝の日々…

川棚支部
岩永和子（84）

私が浄霊を知ったきっかけは母でした。

これは母から聞いた話なのですが、母は頭痛が長く続いていた時に病院へ行っても良くならず、悩んでいた時に、親戚の溝口トヨさんから「浄霊」のことを聞き、川棚支部に行ったそうです。浄霊を受けると頭痛が良くなったそうで、それに感動した母は、昭和二十二年十月二十六日に入会しました。

そのため、私も小学生の頃から、お腹が痛くなった時などは母から浄霊を受けていました。

その後、成人になって結婚したのですが、夫も新健康協会の会員でしたので、支部だけでなく家庭でもよく浄霊を受けるようになりました。

変化に驚いた…

昭和四十二年、私が二十五歳の頃、夫はお腹が痛いと苦しみ出しました。盲腸部が痛いと言っていたのですが、その時は私が入会する前で浄霊が出来なかったので、義母にお願いして自宅に来てもらいました。すぐに浄霊を受けると下痢が出たのですが、あまりにも痛みが酷かったので、私と義母は夫を連れてタクシーで川棚支部へ行きました。その後、支部で浄霊を受けると何回も下痢が出ました。すると、それによって体内の毒素が出たのでしょう、その後は痛みが徐々に治まっていき、支部から帰る時は乗り合いバスに乗って帰れるまでに快復しました。夫のすっかり良くなった姿に、私は大変驚きました。これが明主様の浄霊なんだと思い、感動しました。

この出来事で私も浄霊が出来るようになりたい…浄霊は素晴らしいと思った私はすぐに入会したいと思い、昭和四十二年三月十八日二十五歳の時に入会しました。

◇

平成十年、私が五十七歳の時、脇下から背中の半分にかけて帯状疱疹のような状態になり、突き刺すような痛みを感じるようになりました。水疱が出来ていましたので、夜寝るときも横になれず、布団を抱いたようにして眠っていました。

私は体を動かすのも大変でしたので、支部に出張浄霊をお願いして、自宅に来ていただき、浄霊を受けました。浄霊を受ける度に痛みは少しずつ落ち着いていきました。二、三日、出張浄霊を受けたあとは、夫からも浄霊を受けました。おかげ様で四日目からは自分で支部に行けるようになりました。そして少しずつ楽になり、帯状疱疹のような状態になってから二ヵ月で完全に良くなりました。

歩いてお参り出来た…

令和三年十月十二日、八十歳になった私は、左膝からふくらはぎが痛み出し、腫れもありました。そのため歩きにくく、常に杖を使うようになりました。私は少しでも多く浄霊を受けようと思い、毎日支部へ行きました。

すると、徐々に足の痛みが治まっていき、一ヵ月程で掃除や軽い動作も出来るようになり、足の腫れも引いていきました。

令和四年一月一日、私は家族皆で新健康協会の総本部へ新年のお参りに行きました。足の痛みは楽になったものの小高い山になっている参道を上がって参拝出来るだろうか…と思っていました。しかし、孫たちが私の手を引いてくれたので、歩いて参拝することが出来ました。私は嬉しくて涙が出ました。明主様、本当に有難うございます…と心から感謝申し上げました。

その後、足は三月三日頃に完全に良くなり、今も杖なしで元気に歩くことが出来ています。

入会してから今年で五十八年になりますが、いろんなことで救われてきました。私の子どもたちも浄霊を受けて育ち、今では孫達も浄霊を受けています。この素晴らしい浄霊を一人でも多くの方に体験してもらいたいです。

（長崎県東彼杵郡）

大雨災害

九州北部豪雨 奇跡的に救われる…

篠栗支部
伊藤祐三（68）

今から八年前、私は九州北部豪雨で奇跡の体験をしました。

平成二十九年七月五日、私は大分県玖珠町での仕事を済ませ、車で福岡へ帰っていました。その日は、たたきつけるような雨が長く降り続いていたため、午後四時半頃には、高速道路が一部区間で通行止めになりました。高速道路が使えなくなったので、一般道を走っていると、朝倉市付近で道路が冠水し始めていました。大丈夫かな…との不安もありましたが、前方にはまだ何台かの車もあったので、少しずつ前進しました。

雨の勢いは増すばかりで、道も見えなくなってしまった、その瞬間、「はっ！」と考える間もなく、水の勢いが一気に増していき、延々と続く川のようになった道の上を車ごと流され始めてしまいました。ハンドルも効かない、車内に水はどんどん入ってくる…そんな状態で流されてしまいました。私は不安でいっぱいでしたが、どうする事も出来ず、ただこの流れに身を任せながら、必死に「明主様！」とお願いしていました。

すると、ある食堂の建物のところで車が止まり、奇跡的にそれ以上車が流されることはありませんでした。ところが、今度は車内の水が一気に増えてきたのです。私は危険を感じ、助手席側の窓から脱出して、食堂の軒先の高い部分に移動し、雨が止むことを願っていました。

腰の高さまで水に浸かる…

水の勢いは衰えず、雨もますます強くなりました。日は沈み始め、水位も増す一方で、心配と不安に襲われました。私は篠栗支部に電話し、今の状況を伝えて御守護のお願いをしたのですが、携帯電話の電波状況が悪く、支部の方の声は聞こえませんでした。

私はその店の軒先に上がっていたのですが、それにも増して雨が降り続き、ついには腰の高さまで水に浸かってしまいました。私は六時間もの間、泥水の中で耐え、ひたすら「明主様！」とお願いしていました。その間、目の前を大木が流れ、道は泥水に覆われ、全く地面が見えないまま暗夜となっていきました。

「このままどうしたら良いだろうか…」と思っていた時、暗闇の向こうにピカッとした光が見えました。「救助がきた！」と喜び待っていたのですが、誰も助けには来てくれませんでした。疲れのせいで光が見えるのか…と落ち込んだ瞬間、また光が見えました。しかし、誰も来ませんでした。しばらく経ってから、これは水没した自分の車のハザードランプと分かり、さらに落胆しました。「どうしよう…」と思いながらも、心の中では、ずっと明主様にお願いし続けていました。

午後十時半頃、やっと遠くから声が聞こえてきました。「誰かいますか？」と聞こえる方向へ、携帯電話のライトを光らせ、必死に自分の居場所を知らせました。「良かった！明主様、有難うございます」と深く感謝申し上げました。私は無事に警察のレスキュー隊に救助され、近くの避難所で休むことが出来ました。

翌日、支部に電話し、無事救助されたことをお話しました。避難所で見た朝刊には、豪雨のことが一面に大きく出ており、私が水害にあった地区は、一日で五一五ミリの記録的豪雨と書いてありました。流木の凄まじさが写真で紹介されており、もし救助を待っていた時に、自分の方にこの流木が来ていたら、とても助からなかった…と思いました。また、雨量もあれ以上に増していたら、流されていたと思います。事の重大さを知り、明主様に感謝御礼を申し上げました。

◇

私が入会したのは、今から五十年前の昭和五十年四月十三日です。この時から、浄霊で心身共に救われてきました。そして八年前、こうして奇跡的に救われましたこれは、普段から浄霊を受けて神様を信仰することで、どんな窮地になっても、「明主様！」とお願いすることが出来たためだと思います。もしも何も知らなかったら…と思うと、恐ろしくなります。

これからも一人でも多くの方に浄霊をお伝えしていき、浄霊を受けていただきたいと思っています。

誠に有難うございました。

（福岡県糟屋郡）

ネパール

足の痛み

半年痛んだ足 一ヵ月で楽に…

ナランガー支部
プトウリ・スレスタ（56）

二〇二三年一月頃から、急に左足のかかとから腰のあたりまで痛みが出てきました。何の病気か分からなかったのですが、お腹の真ん中で何かが動くような痛みもあり、歩くのも困難になりました。そんな状態で六ヵ月程経ちましたが、どうしたらいいだろうか…と悩んでいました。

そんな時、新健康協会の会員である私の親戚は浄霊について説明してくれて、浄霊を受けにナランガー支部へ行ってみたら…と勧めてくれました。

私は早速支部へ行き、浄霊を受けました。途中、歩くことが困難な時もありました。なぜ浄霊を受けたのに、困難になったのだろうか…と悩んでいましたら、支部の責任者のビナさんが「浄化作用によって、体内の毒素が溶けているのでしょう。その毒素が出たら楽になりますよ…」との話を聞き、安心することが出来ました。

その後、毎日浄霊を受けることで、少しずつ良くなり、一ヵ月で完治しました。今は元気に歩けるようになり、痛みもなくなり、お腹の真ん中で何かが動く感じもなくなりました。

明主様のおかげで日々健康に過ごすことが出来ています。心から感謝申し上げます。

（ネパール・ナランガー）

浄化作用

人間には体内の毒素（= 不純物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

自然農法

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談

山鹿支部
小池祐生（70）

私は父の代から米作りを行っています。

昭和55年、私が新健康協会を知ったのをきっかけに自然農法を始めました。最初は20アール（約600坪）の田んぼから始めましたが、現在は230アール（約6900坪）の田んぼ全てを自然農法で栽培しています。

◇

数年前に、SNSで縄文文化と量子力学との講演会があるという情報を見つけました。変わった演題でしたが、縄文に興味がありましたので、早速申し込み、受講しました。

しばらく、量子力学のことは忘れかけていたのですが、娘から、父の日のプレゼントに量子力学の本をもらったのがきっかけで再度興味が湧き、深堀をすることにしました。そこで気付いたのが、私の身体も、稲さんも、それまで敵視してきた害虫（人間側の判断）も細胞レベルから細分化していくと、「何だ、一緒の素粒子から出来ている。皆、同じだ。」ということに気がつきました。

それからは、敵視していたスクミリンゴガイ（外来のタニシ）にも向き合い方が変わってきました。せっかく田植えした稲さんを食べるのですが、雑草も食べてくれます。おそらくこのタニシがいなければ除草作業に相当な時間と体力を費やすことになるだろう。と思うと、それまではせっせと拾い上げ、田んぼから出していたのを辞めて、共存することにしました。食べられてしまった稲さんを悔やむより、食べられずに残ってくれた稲さんに感謝と愛情を注ぐことにしました。そのためにも、こまめな水管理（浅水）を心掛けて田んぼに通いました。昔は「親方の足音は田んぼの肥やし」と言われていました。せっせと田んぼに通い、汗水流して、お世話をすることで稲さんも愛情を感じ取ってくれるものだと思います。

このことは、大豆の自然栽培でも体験できました。種を蒔いた後に大雨が降り、発芽が思うように揃いませんでした。種まきの適期も過ぎてしまいますが、再度種まきをし直そうかと思いました。でも思い直して、せっかく発芽してくれた大豆さんに出来るだけの管理をしてあげる事にしました。こまめに畑に通い、中耕、除草等の手入れをしました。

すると一つ一つの株が頑張ってくれて、秋の収穫時にはたくさんの綺麗な実を付けてくれました。ちなみに、昨年の夏から秋にかけて高温、雨不足で、自然栽培の大豆は不作の農家が多くみられました。やはりたくさんの愛情をかけた管理が功を奏したのかなと思います。

愛と感謝を収穫後も注ぐために、お米さんの貯蔵袋（玄米30kg）には、愛・感謝と書いたシールを貼っています。そして発送時には送り出すお米さん達に、祝福と感謝の言葉がけをするようにしています。お米さんをお嫁に出す想いと、お腹ばかりではなく心も満福になられますようにとの思いです。

異常気象が当たり前のようになってきた昨今ですが、食料危機を心配するより、少しの食べ物でも満腹になることが出来たなら、一抹の不安も軽減されるのではないでしょうか。

地球上で生産される食べ物すべてに、たくさんの愛情が注がれますように祈ります。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

喜多川歌麿「婦人相学十躰」之内《指を折る女》

着物の襟元をゆったりと緩めた女性の、腰から上のショットが描かれた本作は喜多川歌麿「婦人相学十躰」のひとつ《指を折る女》です。「婦人相学十躰」は寛政四－五（一七九二－九三）年頃から出版されたと考えられる揃物で、途中何らかの理由でタイトルが「婦女人相十品」に変更されました。これらの揃物名の入っている図は八つ刊行されたようですが、一〇図に至る前に中断されたと考えられています。歌麿の代表作として良く知られる《ポペン（ポッピン）を吹く娘》もこのシリーズのひとつですが、最近「十躰」の題を持つ2枚目の作品が東京国立博物館によって再発見されたばかりです。

本図に描かれた女性は右手の指を折り、何かを数えているようです。折った指に視線を落とし、数を確認することに意識が向けられている様子が見て取れます。少し開いた口元から鉄漿がのぞいているところを見ると既婚女性でしょうか。こうしたディティールから人物そのものに想像が及ぶのも、顔を大きく捉えた半身構図のおかげですが、美人画においてこの形式を始めたのが歌麿その人でした。

役者絵では、美人画よりも少し早くから人物の上半身と表情を特に強調して描く「大首絵」が行われていたものの、伝統的に錦絵の人物は全身像で表わされてきました。役者ファンにとっては顔の特徴を描き分けた似顔を自分のものにできるのは嬉しいことですが、美人画に求められたのは理想の姿であり、カラフルでうっとりするような装束の意匠も大事な要素だったため、あまり顔自体に注目させる必要がありませんでした。しかし歌麿は、本作のような日常的な仕草、表情を手元を含めて細やかに表現することで、新しい形式を切り拓いたのです。

歌麿はこのシリーズと同時期に、美人で評判の市井の娘を「当時三美人」と称して描き始めました。実在の人物を描く企画も「十躰」も、版元蔦屋重三郎のプロデュース力は大きいですが、歌麿の技術なくしては実現もヒットもしなかったに違いありません。師である鳥山石燕は歌麿が手がけた狂歌本の跋文で彼の画力をこう讃えています。「心に生をうつし筆に骨法を画は画法にして、今門人哥麿著す虫中の生を写すは是心画なり」。

解説　松田愛子

晴明会館

「ゆめのうき世に」前期展
期間：令和7年6月3日（火）～12月13日（土）
※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661－1535

健康新聞についてのお問い合わせは
（092）661－1531まで